

【神を離れ、神の御言葉に従わない人生の結局】

聖書本文:士師記2章6-10節/ 暗唱聖句:申命記6章5-7節

説教:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!一週間も主にあつてお元気でしたか。始まった今週一週間のうちにも、生きておられる主がみなさんと共におられ、みなさんの霊肉と共に守って下さり、御助け、全生活と全ての手の業を祝福して下さいますように心から切にお祈り申し上げます!

<1. 士師記>

今日は旧約聖書の7番目に出ている士師記の御言葉を通して共に学んで行きたいと思います。士師記は神様の指導者ヨシュアの死から神様の預言者サムエルの登場までのイスラエルの歴史が記録された聖書の御言葉です。つまり、イスラエルの民が神の約束されたカナンの地に定着して、ヨシュアが召された後からサウルが登場し、イスラエルの初の王になる間の約350年(1388-1052年BC)の歴史が記録されている聖書です。

士師記では13名の士師らが出ています。士師というのは‘民の訴訟(そしょう)を裁判する者’という意味として‘裁きつかさ’、もしくは‘治める人’、‘救う者(deliverer, savior, 士師記3:9)’という意味もあります。イスラエルの民が罪を犯し、墮落して周囲の国々の圧制(あっせい)に苦しめられると、イスラエル民は神様に赦しと助けを求め、神様は裁きつかさを立たせ彼らを赦し、救って下さいました。しかし、神様が救って下さってからまた時間が経てば、イスラエルの民は再び罪を犯し、また神様に背をむけることを繰り返すとなり、その罪の結果、苦しめられると、また神に赦しと求め、赦され、救われる! こういう悪循環のサイクルが7回も士師記で続けられているのが分かります。「罪-圧制(苦難)-懇願(求め)-赦し&救い」

さきほど、申し上げたように旧約の裁きつかさの時代とはイスラエルの民がヨシュアの指導のもとで、カナンに着いて土地を分配され住み始めからの約350年間の時期となります。ある意味でずっと40年間荒野での旅を続けながら、多くの犠牲と苦勞をして来たイスラエルの民たちにとって、あんなに切実に待ち望んで続けて来た神の約束の地カナンに入り、征服の戦いで勝利をし、ようやく分配された自分の地で家を建てて、神様が与えようとする全ての約束された繁栄と祝福がもたらされていた最高の全盛期(ぜんせいき)として送れるはずでした。

ところが、イスラエル民はその繁栄と祝福のうちに偶像崇拜と、背教、道徳的な墮落など極めて深刻な時期となってしまいます。ですから、士師記の時代は一言で言うと、旧約の靈的暗黒期だったと言えます。士師記はこの時代のイスラエルの民たちの状況を士師記では、「そのころイスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」と聖書箇所が、二度も同じく表現されています。(士師記17:6,21:25)

「(人々が)それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」ということは、まさにこの時代に守るべきルールも、規範もない無法の時代だったという意味です。各自分たちの考えと行動だけが正しいと思い込んでいたので、人の墮落と不正と腐敗だらけのどんな時代の時よりも深刻な罪深い時代になりかねなかったでしょう。これがまさに暗黒時代になった士師記が書かれた時代の特徴です。まるで、教会歴史の中でも中世時代が靈的暗黒の時代だったように、旧約の時代、裁きつかさの時代というのはイスラエルにおいて靈的に一番暗い乱れる時期であったことが分かります。

なぜ、どうして祝福の時代ではなく、そうってしまったのでしょうか。約束されたカナンの地に入って、ようやくカナンで自分たちの土地までも手に入れて、定着し、落ち着き、繁栄の暮らしが続けて出来るはずだったのにもかかわらず、どうして祝福の時代が続けられなかったのでしょうか。なぜ神様が13人の裁きつかさたちを立たせなければならぬほど靈的暗黒期になってしまったのでしょうか。士師記を通して、神様は今日の我々に何を示し、教えてくださるのでしょうか。

<2. 士師記の時代、靈的暗黒期の原因>

①神様に対する無知と無経験の為

事実、これが士師時代の根本的問題でした。神様に対する無知、無経験がすべての問題の始まりでした。(士師記2:10)  
「その時代の者たちもみな、その先祖たちのもとに集められた。そして彼らの後に、主を知らず、主がイスラエルのために行われたわざわいも知らない、別の時代が起こった。」それかわり、イスラエルの民たちは神様ではない、カナンの地で拝まれていた他の神々を拝んでしまいました。創造主である神様を信じて仕えて来たイスラエルの民でしたが、神様を知らず、まったく神を体験出来ず、神から離れてしまうと、その変わりにほかの色々な神々に仕えるようになりました。神様への無知と神の無体験が、靈的な暗黒状況を招いてしまったのです。神様なしの生き方! 実際神を体験してない生き方! これは個人だけではなく、家庭、共同体、社会と国全体を暗黒の時期に陥(おとし)れてしまいました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん!BC9、10世紀の中世時代がまさにそうではありませんか。教会がますます聖書の教えから離れ、神様を正しく知識がなくなり、日常生活の中で人々はまったく神を体験できなくなった結果、キリスト教が神ではないものを拝む儀式と宗教活動に変質(へんしつ)されてしまい、ついて靈的、道徳的、社会的墮落をもたらした暗黒の時代を招いてしまったことが分かります。今もみなさん、ヨーロッパのローマカトリック教会を訪問してみれば、純粋なキリスト教ではなく、西洋的仏教のような感じがするほど、高価で派手やかな飾りとアクセサリ、神聖し多くの銅像(どうぞう)や形に包まれています。神様への正しい信仰と御言葉から離れると、神のみを礼拝すべき神の教会の中でさえ、人の目に良さそうに見えるもの、神聖しそうな形を多く作り上げ真の神代わりに、それらに拝んだり、祈ったりしてしまっているところをたくさん

見る事が出来ます。そして、神から離れ、本来の信仰から離れと、人は道徳的、倫理的にも、脱線し、墮落が必ず伴ってしまいます。これがまさに人類の歴史からの教訓ではないでしょうか。我々も同じく神様と関係のない生き方、神様の御言葉から離れた生き方をすると、その結果は必ず人は罪の誘惑に陥りやすく、霊的な鈍感と暗闇を招いてしまい、神以外の代わりにものを神かのように拝んでしまうのが人であることを忘れてはいけません。

## ②偶像崇拝の為

ですから、神様に対する無知、無体験は必然(ひつぜん)的に偶像崇拝につながってしまいます(士師記18:14-20)。以前まで神を信じていたイスラエルの民がいったいなぜ?と思われるかも知れませんが、神様を知らない時、神様との関係が切れ、神を離れた人間はジョン・ホワイト(John White)さんが指摘したように、人間は真の神を信じなければ、神ではないものを神のように拝もうとする存在です。裁きつかさの時代のイスラエルの人々は彼らを救いに導いて下さった神様を忘れ、その地、つまり、カナンの人々が拝んでいた様々な偶像に手出し、拝み始めました。残念ながら、イスラエル民は神様が一番忌み嫌われ、何度も警戒するように命じられていた偶像崇拝を行いました。当時、カナンの神と言うのはバアル、アシュタロテ、アラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アモン人の神々、ペリシテ人の神々などにいましたが、イスラエルの民は、この全部の偶像の神々に仕えていたことが分かります(士師記10:6)。

士師記10章6節を見てください。「イスラエルの子らは再び、主の目の前に悪であることを行い、もろもろのバアルやアシュタロテ、アラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アンモン人の神々、ペリシテ人の神々に仕えた。こうして彼らは主を捨て、主に仕えなかった。」と書かれています。我らのうちに真の神様の存在がいなければ、人の心にはまた何かの代わりに頼り、拝む物を作ってしまうことを是非忘れないようにしましょう。

当時カナンの宗教は多神教(たしんきょう)であって、その宗教は二つの特徴を持っていました。

①一つ目は残酷性です。カナンの宗教は農耕(のうこう)の神として極めて残忍でした。時には自分の子供さえもいけにえとして焼いて殺しました(申命記12:31)。豊かさや風雨(ふうう)のため、神々を喜ばせると言う理由で生きている自分の子供たちでさえいけにえとして殺しさげたわけです。申命記12章31節によると、「あなたの神、主に対して彼らのように礼拝してはならない。彼らは主が憎むあらゆる忌み嫌うべきことをその神々に行い、自分たちの息子、娘を自分たちの神々のために火で焼くことさえしたのである。」と言いながら、神様は決してカナンの人々が拝む偶像に手出さず、警戒するようにと厳しく命じられました(申命記18:10)。

以前みなさんにも紹介したことがあるますが、カナンの神々の中、例え、モレク(Molech)はアモンの人々が拝んだ偶像の神(列王記第一11:5,33)ですが、一番残酷でした。彼らは子供たちを生きたまま焼いてモレクにいけにえとしてささげました。後に起こった信じられないことですが、神様の人だったソロモン王でさえ霊的に乱れ、しばらく神を離れてしまっている間、ヒンノムの谷にモレクのための祭壇を築いた(第一列王記11:7)ことが分かります。さらに信じられないことは、ソロモン王の後にも、イスラエルのアハズ王(第二列王記16:3)や、ホセア王(第二列王記17:17)、マナセ王(第二列王記21:6)も、このアモン人が拝んでいた偶像のモレクの神殿に自分たちの子供をいけにえとしてささげる最悪の罪を神の御前で犯してしまいました!

このようにカナンの宗教は宗教という名前で神からの尊い人の命の大切さや家族の絆さえも破ってしまうほど残酷でした!間違った宗教というのがどれだけ人や家庭を破壊させ、反道徳的、反社会的なのかをよく表してくれます。そういうわけで、神様は彼らに一切に悪影響受けないように、ご自分の民イスラエルが聖く守られるために、カナンの征服の戦いの時、彼らと一切妥協せず追い出すようにと厳しく命じられましたが、イスラエルの民はその神の御言葉に従わなかった結果、後で、カナンの偶像に手出し、捕らわれ、残酷な罪を犯してしまうこととなります。

## ②二つ目、カナンの宗教の特徴:淫乱性

カナンの地の神々は豊作(ほうさく)の神として、人や動物のように性的関係を通して豊かな産物をいただく信じ込み神々の前で淫乱な行為を行ったのです。そういうわけでカナン人たちでは男性の神と女性の神を作ったわけです。バアルは男の神であり、アシュタロテは女神でした。カナンの宗教は自然の生産力(fertility)は男性の神と女神との関係を結ぶ事によって与えられると信じたので、宗教という名目で公式に、そして公開的に淫乱を行い、神を喜ばせるという名目で男性の祭司と女性の祭司たちが性的儀式を堂々で行いました。ですから、この世のすべての偶像の神々は、人が人のことの中でのアイデアを出し、作り上げたものですが、真の創造主なる聖書の神様は自ら、おられるお方であり、神様が持つておられる品性を与え、命と息を与え造り上げて下さったのが人間であるわけです。

当時カナンで本当に間違った宗教、偶像崇拝がもたらす弊害(へいがい)がどれだけ深刻だったのか想像することができます。出エジプト34章15節には、「あなたはその地の住民と契約を結ばないようにせよ。彼らは自分たちの神々と淫行をし、自分たちの神々にいけにえを献げ、あなたを招く。あなたは、そのいけにえを食べるようになる。」と書かれています。そういうわけで、神様は彼らを絶滅するのみならず、彼らとは一切関わらないようにと命じられたのです。神の民の信仰と生活、家庭が守られ、カナンの偶像崇拝者たちの淫乱な生活がイスラエルの民に一切浸(し)み込まないようにするためでした。しかし、神のその御言葉を真剣に受け止めず、ちゃんと聞き従わなかったため、結局、イスラエルの神の民たちもカナンの人たちと同じように、淫乱な行為を行ってしまったのです。

## ③不法と不道徳の為

神様に対する無知と無経験、偶像崇拜と一緒にこの裁きつかさの時代の三つ目の問題は、**不法と不道徳**でした。異教の崇拜はその時代の個人と社会に不法と不義、そして道徳墮落をもたらしました(士師記18:11-13)。道徳的、倫理的規範(きはん)がありませんでした。士師記では「そのころイスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた(士師記17:6,21:25)」。士師記17章以下の本文はその時代がどれだけ墮落したのかをよく表しています。人がやるべきこととやってはならないことを見極め、見分けられるように教えて下さる神の絶対的基準と真理の御言葉を離れてしまった結果、人々は自分がやっているのは正しいと思い込み、自分勝手に生きた結果、淫乱、殺人、性的墮落は家庭を崩れさせただけでなく、社会や共同体を破壊させました。すでに当時同性愛と同性の淫乱な行為が蔓延したり、一人の女を集団的に強姦(ごうかん)して殺したり、ある地域の約4万人を大量虐殺されるなど極めて恐ろしい暗黒の時代に陥られてしまうほどでした。変わらない神の真理の御言葉から離れると、人は自分の思うままが正しいと思い込んで、自分勝手な道に進んでしまい、無法の時代を招いてしまうことを士師記を通して共に覚えておきたいと願います。

#### ④不従順の結果の為

実際、ヨシュアの時代、カナンを攻め取る時、神様の命令に徹底的に従った為、イスラエルの子孫たちの行き方は変わらなかったかも知れません。しかし、当時イスラエルの民は最初から神様に従いませんでした。

士師記1章によると、イスラエルの民の不完全な征服について記録されています。つまり、イスラエル民はわずかなことだったかと思っただけかも知れませんが、不従順の痕跡(こんせき)を残してしまっただけです。「追い払わなかった」と言う表現が何度も繰り返されています(1:19,21,27,28,29,30,31,33,34節)。

実際にイスラエルの民はカナン人たちを全員追い払うことが十分できました(申命記20:1)。神は彼らにカナン人たちと戦って勝てる、そして、彼らを追い払う力をも与えて下さいました。しかし、イスラエルの民は追い払えなかったのではなく、わざと彼らを追い払いませんでした。結局、わざと神様の命令に従わなかったのです。なぜでしょうか。

①一つ目は、イスラエル民はカナンの地に住んでいる人々から農業技術を受けもって豊かな生活をした欲張りがあったからです。②二つ目は、もって便利な生活のため、カナンの人々を残し、彼らの労働力を利用したくなったからでした。それで結局不従順のため、イスラエルの民は後約100年間他国の攻撃を受ける苦しみを受けるのみならず、自分たちもカナンの人たちのように変質(へんしつ)されてしまったわけです。

目の前に見える物への食欲と欲張りや有益のため今までイスラエルの民を救い、食べさせ、導き入れて下さった神を捨てて、その神の御言葉と命令に真剣に従わなかった結果、カナンの人たちを残し、彼らからカナンの偶像崇拜、罪、墮落の文化に影響され、されされてしまい裁きつかさの時代の歴史を暗闇の歴史を作ってしまったのです。愛するクリスチャンプレイズの神の家族のみなさん!神の御言葉に従うことは今すぐには損を受けるかのように見える時があるかも知れませんが、神は従う者に決して損になりようにさせません!

この士師記でも神様は徹底的に信じる者の従順を強調して下さいます。神様に従うというのは神を信頼すると言う意味にもなると思います。これが個人と共同体の成敗を決定しました。

神を知らず、神から離れて従わない人やその人生がどうなるか、今日の士師記では明らかに教えて下さっているわけです。裁きつかさの時代を見ると、神様がイスラエルの民に何度も強調された御言葉が「わたしはあなたがたをエジプトの地から連れ出したあなたがたの神である。わたしのほか神々に仕えてはいけません。」がよく理解されると思います。神様は信じるイスラエルの民のため、今まで彼らの罪を何度も何度も彼らを赦し救ってくださり、導いて下さったのにも関わらず、カナンでイスラエルの民たちは、問題や苦しみが解決されると、また、すぐ神を忘れ、神を離れる繰り返しの不信仰と不従順の行いを続いていたのです。裁きつかさの時代の根本的な問題は**神様に対する無知、無経験の為、不信仰と不従順の生き方と行いが伴われてしまったことが分かります。**

#### <3. 神を信じていたイスラエルの民がいったいなぜ神様を知らず、離れ、生きておられる神を体験出来なくなったのか。>

##### \* 子供たちに神の御言葉と信仰の教育の不在

それではみなさん、いったい神を信じていたイスラエルの民がいったいなぜ神様を知らず、神を離れ、生きておられる神を体験出来なくなってしまったのでしょうか。その原因はどこにあったのでしょうか。

今日の本文にその原因が表されています。7節と10節をみてください。7節を見ると、「ヨシュアがいた間、また、主がイスラエルのために行われたすべての大なる技を見て、ヨシュアより長生きした長老たちがいた間、民は主に仕えた。」

ヨシュアと神様の救いの御わざを見て、知っている人たちが生きていた間には、みんながちゃんと神様を信じ、神に仕えていたことが分かります。つまり、ヨシュアの時代までは、みんなが神様を正しく知り、信じて、その神様の御前に礼拝を捧げつつ、実際生活上の中で神を体験していました。

ところが、10節をご覧ください。「その世代の者たちもみな、その先祖たちのもとに集められた。そして彼らの後に、主を知らず、主がイスラエルのために行われたわざも知らない、別の世代が起こった。」ヨシュアとその時代の人々が死んだ後、次に起きた世代は神を知らず、そして、神様の行った御わざも知らない」と記録されています。

この理由について、全て説明して下さってはいませんが、一つ、推測できるのは、カナンの地に入り、占領したそのカナンの地が分配されました。ヨシュアとその時代の後の人たちは安定された生活と暮らし、豊かと潤うされた環境の中、多くの農産物や収穫物を手に入れる繁栄と祝福の時代を体験している中で、大切な一つの駆るんじく思い込み見逃してしまったことがあります。それは、自然に信仰が継承されるだろうと油断してしまったのか、神様に対する信仰と御言葉を自分たちの子供たちや子

孫にちゃんと伝え教えなかった事です！ 出エジプトから救い出され、荒野での間、数多くの神の奇跡と御業をとおして表された神様の救いと恵みを、次の世代に教え、伝えるように絶えず、神様はイスラエルの民たちに命じられたのにもかかわらず、イスラエルの民は一番大切な神を信じ、神の御言葉に守り行う事を後回しにしてしまい、神の御言葉に教えず、従わなかったからでした。

- 「申命記6章1-7節」を読んで見ましょう。「1これは、あなたがたの神、主があなたがたに教えようと命じられた命令、すなわち起きてと定めである。あなたがたが渡って行って所有しようとしている地で、それらを行うようにするためである。
- 2それは、あなたの一生の間、あなたも、そしてあなたの子も孫も、あなたの神、主を恐れて、私が命じるすべての主のおきてと命令を守るため、またあなたの日々が長く続くためである。
- 3イスラエルよ、聞いて守り行いなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの父祖の神、主があなたに告げられたように、あなたは父と蜜の流れる地で大いに増えるであろう。
- 4聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。
- 5あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。
- 6私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。
- 7これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座っているときも道に歩くときも、寝るときも起きる時も、これを彼らに語りなさい。」

家族に、子供たちに救いと祝福の源であられる神を、そして、神の御言葉を、聞かせ守り行われるように。教え込み、分かち合い続けるようにしなさいという神様の御言葉と命令をないがしろにしてしまいました。目に見える忙しい働きのためだったのか、豊かな周りのもので心が捕らわれ、家族や子供たちに神の御言葉を教え、分かち合うべき神の御言葉を後回しにしてしまったかも知れません。

荒野での40年間の旅路を終え、カナン約束の地に入る前に、モーセはイスラエルの民をモアブの草原に集め、神様はモーセをとおしてカナンに入った「あなたも、そしてあなたの子も、孫も、あなたの神、主を恐れて、神が命じるすべての御言葉から離れず、しっかり守り行うようにしなさい(申命記6:2)」と命じられた御言葉に対し、結局、カナンに入ってから自分や、自分の子孫たちに教える事に従わなかった結果、裁きつかさの暗黒の時代、墮落してしまった時代を招いてしまったのです。

その結果、ヨシュアとその時代の人々が死んだ後、次の世代の子孫たちは神様を知らなかったのです。神様はどんな方であるのか、神様の愛と救いの御業も知らず、神の御言葉を教えなかった結果、子供たちの時代になると、まったく神様に対する無知で、信じなかった偶像崇拝をしていたカナンの人たちと同じくなくなってしまいました。

個人や家庭だけではなく、イスラエル民族全体の行き先に決定的影響をもたらせてしまいます。11節をみてください。  
「すると、イスラエルの子らは主の目の前に悪を行い、もろもろのバアルに仕えた」

約束の地に入って約束の地をいただいて安定した生活はできたものの、たった一世代も過ぎず、一番大事な救いと祝福の源であられる神を忘れ、神を離れてしまい霊的暗黒の時代を招いてしまったのです。

ですから、士師記の今日の本文は改めて、神の御前で信仰を持っている親の責任はとても重大です！家庭の中での親の信仰教育と行いがどれだけ大切であるのか教えて下さいます。すでに神を信じている信仰の親がご自分の子供たちに神の御言葉を分かち合い、共に祈りつつ、今も生きておられる神を体験させなければなりません。子どもたちに真の神について、神の救いと祝福について、絶えず教え、分かち合って一生忘れないように導かなければなりません。

家庭でこそ、本当に神を信じる信仰の行いと生き方の模範を子供たちにちゃんと示さなければなりません。

もちろん、教会でのアワナクラブで神の御言葉を教え、分かち合っ

て下さる働きと奉仕の大切な言うまでもないです！しかし、今日の士師記では、大切なメッセージの核心は、家庭の中で、自分の家族に、自分の子どもたちに、まず神を信じている親が、神の御言葉を通して、子供たちの将来が祝福され、繁栄される源である神を知り、体験できるように、神を一生離れないように、守り行う人になれるように、教え続け、分かち合い続けなければなりません！これこそ、主からの我ら親への一番大切な使命と責任として与えられていることを受け止め、従い実践していくことを共に覚えておきましょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々がこの世を去った後、我々の子供たちが、もしくは我々の子孫が神様を知らないで、神から離れてしまい、まったく神と関係のない人生となって生きる事を想像して見て下さい。我々の子供たちが神様は誰だろう、イエス・キリストが誰であるか知らないままこの世の流れに沿って生きて考えると想像して見て下さい。父や母は教会に熱心な方、教会の執事、役員、働き人、牧師だったのに、その子供は神様のない生き方をするのなら、御国に行ってもどんなに悲しくなりそうですか。今日、我々クリスチャンたちに与えられている大切な使命があれば、もちろん信じていない方々に福音を伝えることも大切ですが、同時に我々の子供たちに、家族に神を知る事ができるように御言葉を伝え、信仰によって育ち、神様を信じる信仰によって生きようと、神様の御言葉から離れないように、先に信じている我々が信仰の模範と見本になって行きましょう。メッセージを終わらせたいと思います！今日我らCPC全信仰の家族のみなさんはこの士師記の時代の人たちのようにまた繰り返しの生き方にならないように切に祈ります。士師記の時代にも、今日にも同じく生きておられる神様の御前で徹底的な信仰と御言葉への従順の生活と生き方を保つことにより、御言葉に約束された神の豊かな恵みと祝福が我々の時代から、さらに我々の家族と子供たちの世代にも続けられる神に祝福される全クリスチャンプレイズチャーチの素晴らしい信仰の名家の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！